
ガルゴフィリン隊

月見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガルゴフィリン隊

【Zコード】

「8076」

【作者名】

月見

【あらすじ】

そこにはありふれた平和な景色があった。
しかし終わりの時は突如訪れる。
宇宙からの使者によつて…。

終わりを告げるモンスター

近所に新しくケーキ屋ができるらしい。
甘い匂いにつられて入る。

一
い
ま
せ
え

かわいらしい店員さんが迎えてくれた。
店内はウッド感あふれる暖かい雰囲気の感じのいいお店という印象
だ。
奥でカフェもやっているらしい。

ええと。どれにしようかな。

色とりどりのケーキはさながら光り輝く宝石のようである。その中でもフルーツをふんだんに使っているらしくタルトに目が止まつた。

おいしそう。

「あのね、これ一つください」

一
はい、季節のフルーツタルトですね。

例のかわいらしい店員さんが箱に詰めている間、ぼんやり他のケー
キ眺めていた『その時』である。

「 もちろんおまえのやうな人間は、おまえのやうな人間がおまえを殺すんだよ。」

はつと頭をあげると、なんとかわいらしい店員さんがモンスターの
ようなものに羽交い締めにされているではないか。

モンスターにつかまつた店員さんは「たすけてえ！」と声をあげつづけているが、店員さんより少し背が高く、体のでかいモンスターに手も足もでないようである。そのモンスターは白くズロズロしたヘドロに覆われ、所々に見える地肌は茶色くやわらかそうであった。

「でたな、モンスターー〇〇一…」

そう、それはまさしくガルゴ星からやってきたフィーリン隊員のひとりであったのだ…。

じつして僕らの平和の時代は終わった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8076j/>

ガルゴフィリン隊

2011年10月6日17時36分発行